

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月16日

【評価実施概要】

事業所番号	873900724		
法人名	有限会社 万葉		
事業所名	グループホームゆうもあ館		
所在地	石岡市下青柳948-2 (電話) 0299-36-5710		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年6月12日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】(平成19年5月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数(平均)	10 人	常勤8人, 非常勤9人, 常勤換算6.25人	

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(6月12日現在)

利用者人数(平均)	8.5名	男性	3名	女性	5.5名
要介護1	1	要介護2	2.5		
要介護3	2.5	要介護4	1.5		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 86.5歳	最低	76歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石岡第一病院・柏木医院・寿星会石岡診療所・あだち歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

風光明媚な自然環境の中で「束縛を受けず、ゆったりと老後を過ごせるように」との運営方針の下、外柵もなく日中は鍵をかけない環境の中で、利用者が思い思いの生活ができるよう、日々のケアに取り組んでいる。
また、フラワーパークで地域交流を行うなど、地域の方々にグループホームの理解と協力が得られるよう、積極的に働きかけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の評価結果をコピーして全職員に配布するとともに、ケア会議を開き課題の改善について検討し、改善できるところから、改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票を全職員に回覧するとともに、職員が気づき等を記載し、結果を管理者が取りまとめている。 外部評価の評価結果を、誰もが見る事ができる場所に掲示している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を開催し、ホームの理解を得るため、運営理念や特徴等の説明、外部評価の結果報告、災害時の協力依頼等を議題に討議している。 また、地域の人たちの関心ごとや不安を把握している。 市の担当課や地域包括支援センターに相談や助言を受け、サービスの向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの苦情相談窓口、担当者名や第三者機関の連絡先を重要事項説明書に明示している。 玄関に意見の受付箱の設置や家族にアンケート調査を実施しているが、回収できない等、家族とコミュニケーションを図る機会を設け、意見等を聞くまでには至っていない。 管理者や職員は、ホームを訪問することができない家族とのコミュニケーションを図るため、利用者の日頃の暮らしぶりを電話等で報告するとともに、意見や要望を引き出すよう、働きかけることが望まれる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 公民館活動(生き生き体操)へ参加するとともに、太鼓の会などの地域ボランティアや中学生の体験学習・吹奏楽などを受け入れている。 また、地域や家族の方々を招待後、ホームの内覧会を実施することなどにより、地域交流を行っている。 野菜作りなどを通じた交流やホームの納涼祭り等の行事への招待など、日常的に地域と連携している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることができるよう、従来の理念に地域密着型サービスの項目を追加している。	○	新しい理念を明示したパンフレットを作成するとともに、ホームの活動内容などをわかりやすく表示することを提案する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月曜日のミーティング時に理念を唱和し、確認している。 職員全員に理念の周知と理解を図り、会議で理念の実現に向けた話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	フラワーパークでイベントを開き、近隣の人たちや家族を招待し、イベント後にホームの内覧会を行うなど、地域交流に努めている。 太鼓の会などの地域のボランティアや中学生の体験学習を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の評価結果をコピーして全職員に配布するとともに、ケア会議を開き課題の改善について検討し、改善できるところから、改善している。 自己評価票を全職員に回覧するとともに、職員が気づき等を記載し、結果を管理者が取りまとめている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、ホームの理解を得るため、運営理念や特徴等の説明、外部評価の結果報告、災害時の協力依頼等を議題に討議している。 また、地域の人たちの関心ごとや不安を把握している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課や地域包括支援センターに相談や助言を受け、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に金銭報告を毎月行っている。 ホーム便りは発行しているが、写真のみの掲載となっており、利用者の暮らしぶり等を報告するには十分ではない。	○	ホーム便りは法人全体で発行しているもので、ゆうもあ館独自のものを作成し、利用者の暮らしぶりが家族に伝わるよう、掲載方法等を工夫することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情相談窓口、担当者名や第三者機関の連絡先を重要事項説明書に明示している。 玄関に意見の受付箱の設置や家族にアンケート調査を実施しているが、回収できない等、家族とコミュニケーションを図る機会を設け、意見等を聞くまでには至っていない。	○	管理者や職員は、ホームを訪問することができない家族とのコミュニケーションを図るため、利用者の日頃の暮らしぶりを電話等で報告するとともに、意見や要望を引き出すよう、働きかけることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤者は定着しているが、地理的な面もあり非常勤者の応募者は少ない。 人員不足を家政婦協会に頼っているため、契約期間の制約から人材確保が安定していない。	○	積極的にヘルパー実習生を受け入れたたり、職員から知人紹介が得られるよう工夫するなどにより、安定した職員配置をすることが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したときは、研修内容をケア会議で発表するとともに、資料をファイルに綴り、職員がいつでも見られるよう、保存している。 職員育成に関する取り組みや研修に参加する際の取り扱いなどの体制が十分に機能していない。	○	運営者は職員一人ひとりに応じた研修計画をたて、計画的に職員の育成を図るとともに、研修受講についても、参加しやすい体制づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の4つのグループホームで、勉強会やホーム見学などで交流しており、活動を通じて得たものを、ホームのサービスに取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立ち、利用予定者にホームに遊びに来てもらったり、体験入所を受け入れるなど、ホームで安心して生活できるよう、環境づくりを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の種まきや山菜の調理の仕方、和裁や縫い物などを利用者に教わるなど、ともに支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から利用者一人ひとりの思いを把握するとともに、墓参り等の意向を個人記録簿に記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と相談のうえ介護計画を作成している利用者もあるが、利用者全員に対応するまでには至っていない。	○	介護計画の作成は、本人がホームでより良く暮らすために必要であるので、家族の協力が必要であると説明し、頻会の面会や介護計画作成に意見や要望を聞けるよう、働きかけることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、介護計画の期間に応じてカンファレンスを行い、職員と意見交換のうえ、見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケア（人生の最期を迎えるにあたってのケア）、外泊の支援、通院介助、外出支援、家族来訪時の駅までの送迎など状況や希望に応じて柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による定期的な往診やかかりつけ医への通院介助など、本人や家族の希望に添った、適切な医療を受けられるよう、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に話し合い、確約書を取り交わしている。 ターミナルケアを行った経験から、職員全員が利用者の状態変化に応じた対応ができるよう、関係者と話し合いを行うなど、全員で取り組んでいる。	○	終末期における対応マニュアルを作成することを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの思いを大切にして、拒まず、寄り添うケアを実践している。 個人の記録簿等はファイルして事務室で保管し、個人情報漏洩しないよう、徹底している。	○	面会簿を面会者ごとの書式とする等、個人の情報が漏れないよう、配慮することを提案する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間や散歩、買い物の希望など、利用者一人ひとりの希望に添った支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで収穫した野菜を食材として利用し、食事の話題にしている。 利用者と職員と一緒に調理の下ごしらえや後片づけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を確認した利用者には、希望に沿った入浴支援をしているが、利用者一人ひとりの希望を聞くまでには至っていない。	○	利用者一人ひとりから、入浴の希望を聞き、希望に応じた支援することを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が書いた習字、手芸品や和裁・洋裁等の作品をホーム内に展示している。 また、車椅子の利用者が作業できるよう、菜園の高さを変えるなど、工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	フラワーパークを散歩コースとして活用したり、ドライブに出かけるなど、利用者一人ひとりの希望に添った外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は利用者の行動を束縛することなく、鍵をかけないケアを見守りにより、支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の「山登りの会」や地域の行事に参加して親睦を図り、災害が合ったときには協力を得られるよう、働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	設置法人の栄養士に献立や栄養バランスの確認を依頼している。 また、利用者一人ひとりの食事の摂取量を記録するとともに、水分量は1日の流れの中で、必要量を確保するなど、利用者に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の天窓からの太陽熱が強すぎるため、テーブルや椅子をその都度移動させている。 運営者のこだわりから網戸を取り付けていないため、窓や扉の開放時に害虫の侵入がある。 廊下やホールの壁面の飾り付けが多すぎて、家庭的な配慮に欠けている。	○	利用者が安心して快適に暮らせるよう、天窓の遮光や網戸の設置が望まれる。 また、廊下やホールの折り紙やスナップ写真類を整理して、家庭的な落ち着いた雰囲気作りをすることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの鉢植え植物や位牌、家族の写真等を飾っているが、馴染みの物品の持込が少なく、居心地よく過ごせる工夫が十分ではない。	○	ホーム便りなどを利用し、利用者が居心地よく過ごせるよう、家族に理解と協力を促す取り組みを期待する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。